

2018 年度日本活断層学会学会賞

受賞者：千田 昇

授賞理由：

千田 昇会員は、九州の活断層や地形発達を長年にわたって研究し、活断層研究・地形学・第四紀地質学に関わる多くの重要な成果を生み出してきた。2016 年熊本地震が示したように、九州は地殻変動・火山活動が活発で活断層も密に分布しているが、活断層研究者人口が少ないのが現状である。千田会員は大学院生の頃から、空中写真判読による地形解析や地道な野外調査に基づき、九州の活断層の分布・変位様式・変位速度等に関する質の高いデータを積み重ね、九州の活断層や地震テクトニクスの理解を大きく進めることに貢献した。中部九州地溝帯の成因を大分-熊本構造線の運動に結びつけるモデルを提唱し、その過程で熊本地震で破壊した布田川-日奈久断層の右横ずれ運動を研究の初期の段階で指摘した。これらの研究成果を多くの学術論文にまとめると共に、大縮尺の活断層図・データ集である「九州の活構造」の刊行では中心的な役割を果たした。また「日本の活断層」や「活断層詳細デジタルマップ」などの刊行では、九州地区の活断層データのまとめに多大な貢献をした。1995 年の兵庫県南部地震以降に九州でも精力的に行われるようになったトレンチ調査では、数少ない変動地形学者としてほとんどの調査に関わり、人工改変が進んだ難易度の高い地域での掘削地点の選定等に多大な貢献をした。また別府湾や博多湾をはじめとする沿岸海域の活断層調査や九州東岸の津波堆積物調査などの共同研究を精力的に進め、多くの貴重な成果を生み出した。これらの共同研究が円滑に進み実り多いものになったのは、千田会員の円満で穏やかな性格と真摯な研究態度が大きく寄与している。また日本活断層学会の設立に際しては、発起人として学会の立ち上げに参画し学会活動を支えてきた。このような観点から、選考委員会は千田 昇会員を 2018 年度日本活断層学会学会賞に値すると評価する。